

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092300074		
法人名	社会福祉法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	長野県諏訪郡富士見町富士見11650-1		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成26年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを重視する取り組みを始めている。入居者の思いを聞き取り、それに沿えるように努めている。歌の好きな方が多く笑い声の多い施設です。
---

26年度の目標を「個別ケア」とし、各種のサービス提供場面での個々の利用者に応じた、その人らしさが引き出せるような暮らしとなるよう取り組んでいる。開所してから4年目となり、自己評価や外部評価から、課題等に気付き、前向きであり、真摯に、積極的な取り組みを行っている。職員配置の工夫や介護に集中できる環境作り、質の向上に向けた研修や学習のあり方など利用者の暮らしを支える基盤作りに努めている。各種のボランティアの受け入れや地域行事への参加など利用者が事業所で地域と共に、あたり前に暮らしていける橋渡し役となるよう取り組んでいる。
---

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
ユニット名(1階)				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)			1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( 2階 )			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族の2/3くらいと
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
	3. たまにある		3. たまに
	4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 少しずつ増えている
	3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
	4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 職員の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が
	2. 利用者の2/3くらいが		2. 家族等の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		
	1. ほぼ全ての利用者が		
	2. 利用者の2/3くらいが		
	3. 利用者の1/3くらいが		
	4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほぼ実践できている。	理念を玄関入口に掲げ、職員だけでなく、面会者等にも理解できるよう対応している。理念と「ケア方針」を併せて、事業所が拠り所とし、目指す方向を明文化している。パンフレット等に明記することを検討中である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常時の交流していないが、俳句、詩吟などのボランティア、高校生の実習生の受け入れ、中学の文化祭に出掛けたり町の文化祭、生活展に作品を出展し見に出かけている。	自治会に加入すると共に、地域の行事への参加、事業所の行事への招待、各種のボランティアの受け入れ、高校生の実習受け入れなど地域とつながりながらの暮らしを支えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>	夏祭りに地域の皆さんを招待したり、見学やボランティアの方を受け入れ日常の支援をありのままに見て頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回行っているが、参加者や入居者の意見を参考に改善してきている。又会議録を公表している。平日にも関わらずご家族の参加もある。	行政・地域・家族・介護相談員・民生児童委員の構成で、年4回、開催され、事業所の現状や課題が透明性を持って報告されている。外部評価も議題として提起され、委員の理解を得ている。多くの方の参加を望んでおり、開催曜日や時間を検討している。	委員構成の中に地域の代表者や消防団員の参加を検討されることを期待したい。また、運営推進会議を行事や防災訓練などと一緒にすることも、委員の方の事業所理解に結び付くので、検討されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム推進会議などで取り組んでいる。介護相談員の訪問を受け相談や意見をケアの向上に繋げている。	運営推進会議の前に、30分ほどの利用者との話し合いの場を設け、町や広域連合の職員の事業所を理解して頂く場としている。介護保険等に関する相談は電話等で行い、行政からの各種情報は法人内の連携により把握している。介護相談員の訪問が2か月に1度あり、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の施設であるため玄関の施錠は必要と思われる。身体拘束と思われる行為には、その都度話し合い別の方法に回避するよう努めている。	玄関や2階の出入り口は施錠されているが、勤務人員体制などを考慮して、主として午後を中心に利用者の気持ちに副って外出・外気浴を行って、抑圧感のない暮らし作りに努めている。身体拘束しないケアについては職員の認識の共有化は充分に出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のスタッフ会議、月2回の拡大所長会議で意見交換を行っている。また、直接入居者からの苦情に対しても管理者が注意、指導を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者教育などでやっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得されていると思う。新制度導入時は文書を送り、同意を得てから行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を言いやすい、関係作りにつとめている。直接言いにくい場合は玄関に意見、苦情など書いて入れていただく箱を用意している。運営推進会議、介護相談員の意見も反映している。	意見・思い・要望は利用者には日々の生活の中で聞き、家族には面会時や電話、必要に応じては事業所に来て頂き、話し合っている。「ひなたぼっこ通信」を毎月発行し、担当者による近況報告も毎月行い、信頼関係作りの工夫をしている。要望等には速やかに対処している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、月2回の拡大所長会議、又その都度意見、提案があれば検討している。	職員は月1回のスタッフ会議や勤務の中でリーダーを通じて意見や要望等を提案している。スタッフ会議の議題の提案も出来るようになってきている。管理者とは年2回ほど個人面談を行っている。研修や学習の機会を積極的に設けて、職員の向上心を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己啓発に力を入れている。各種試験への助成金制度などを取り上げている。一時金についても毎年アップさせている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回以上は各種研修にでられるように力を入れている。また、自己啓発支援制度で学習意欲を高める努力をしている。新人教育に担当を決めて何でも相談できるようにしている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪地域内の各施設と情報交換、介護連絡会への参加を行い、相互監査を検討している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安が何かを傾聴する事で安心できる暮らしを支援する様努めている。また、それぞれに合った役割をもつていただくことにより施設が居場所になるよう支援している。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望等で即対応できる事はを行い、時間をかけ、継続して支援する必要がある内容は説明して信頼し、待っていただける関係づくりに努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先すべき支援はプランにてみんなで共有し、それに沿った対応に努めている。また、社会資源を利用し、必要と思われる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、できることは一緒に行っている。野菜切り、盛り付け、食器拭き、洗濯干し、洗濯もののかたづけなど。常に感謝の言葉をかけながら共にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良好な関係を継続できるよう努めている。日常生活をお便りや写真などでお知らせして面会につながるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設側からの働きかけはしていないが訪ねてこられた方にはまた来所したいと思われるような対応を心掛ける。ドライブで家の近くへ行ったり、通った学校に寄ったりしている。	広域からの利用となっているので、事業所の近辺に馴染みのない方もいるが、友人や隣接する宅幼老所の利用者が訪ねて来ることある。ドライブで生家や懐かしい学校へ行ったり、家族の協力で墓参りをして馴染んだ場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士、できる人が手助けをしたり声を掛け合ったりされている。現在孤立されているかたはおられないが、時には一人ぼっとされている姿があれば職員が声掛けをしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の課題である。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意見を言える方には意向に沿えるプラン作りをしている。日々の様子からその方の思いをくみ取る努力をし、徐々にセンター方式の私の姿と気持ちシートを取り入れ、意向の把握に努めている。	「私の姿と気持ちシート」作りに取り組み、2階の利用者は全員分が出来上がった。傾聴や回想法などを活用して利用者の思いを聞き出し、その人らしく暮らしているよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自身で伝えられる方にはお話を伺い、ご家族からも情報を得よう努めている。傾聴ボランティアの方と詠まれた俳句の中に暮らし方が表れていてその内容でご家族と又話を伺える。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や個別記録で把握に努めている。有する能力の維持に努め、できたことを記録に残しプランにつなげている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意向に沿えるプランづくりのために月1回のモニタリング、カンファレンス等の意見を参考にしてその方に沿ったプラン作りに努め、介護者側の自己満足にならないよう注意を払っている。	利用者や家族の意見や要望を盛り込んだ介護計画を作成し、サービス提供状況は個人記録に明記し、3か月毎の実施状況把握・評価につなげている。毎月、フロア会議等の際に介護計画の実施状況や意見交換を行い、現状に即した計画となるよう対応をしている。	モニタリングは、より適格な次の計画作りに結び付く素材である。提供したサービスを正確に記録し、その際の利用者や職員の思いやつぶやきが明記されると、評価しやすくなるので、実施状況を記録しやすい様式作りの検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の日々の様子が詳しく書かれていないことがあり、気づきの共有に欠けることがある。気づきを促す働きかけをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や介助の必要性などへの対応は暫定プラン作成や臨機応変に対応して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>歌・俳句・詩吟ボランティアの方々に定期的に来ていただき、今まで続けてこられたことを今後も続けられるよう支援している。また、俳句等無理強いせずまずは傾聴から入っていただき、その中から自然に1句でき、それが生きがいにつながる気長な支援をしている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所から受診する医療機関へは納得されたご家族に、施設側が付き添い、受診している。また、今までのかかりつけ医への受診はご家族に看護師からサマリーをお渡しして、付き添っていただいている。また、特変等あれば施設側から付き添っている。</p>	<p>利用者や家族の希望するかかりつけ医となっており、多くの方が事業所の協力医療機関となっている。通院は看護師が同行し、医療機関との連携は良好であり、家族との情報交換も充分に行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段と違う様子や特変等その都度看護師に情報を伝え、相談し受診が必要であればご家族にも連絡して受診につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の情報はご家族からしか得られていないが、病院のソーシャルワーカーとも密にし、状態を聞き、退院時はご家族と一緒に説明をうけられるよう努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りケアが必要になると思われる方が名おられるが早い段階でご家族、主治医、看護師、職員と話し合いご家族の意向を酌んで対応している。</p>	<p>重度化や終末期対応の指針があり、利用者や家族に了解を得ている。医療対応が多くなる場合は個別に話し合うことになっているが、基本的には、家族等の意向に副う体制になっており、終末期には看取り計画を立てて対応することになっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できるように訓練を定期的におこなっている。新しい職員採用に伴い、看護師より徐々に指導を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年行っているが、今年度は10月に避難訓練を予定している。法人全体の緊急連絡網訓練、通報訓練も行った。	昼・夜想定避難訓練、緊急連絡網による伝達訓練・消防署への通報訓練と災害時の対応への備えは出来ている。地域との相互応援体制・スプリンクラーの設置・食糧の備蓄などの体制は整っている。2階の利用者の避難誘導は階段利用は困難が多いので、消防署の指導を得て、的確で現実的な方法を選択することが良いと思われる。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者というより馴れ合いの言葉かけをする場面も見られる。特に排泄時の対応や声掛けは相手の立場になり、接する様みんな徹底している。接遇月間を設け、接遇に関する自己評価を実施、自身の対応に意識を持つこと、管理者がそれぞれ自己をどう評価しているか知ることでの今後の指導につなげる。	理念に「心があたたかくなる言葉かけ」を掲げており、接遇月間を設けて自己評価・管理者評価を行い、相手の立場になって接することを心掛けている。馴れ合いの言葉かけ等が見受けられるので、その場・その時にリーダーや管理者から注意を促している。書類等は鍵の掛かる保管庫に収納されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと焦らせることなく思いを伝えられる対応を心掛けているが、選択による自己決定の場面も多い。希望を表して下さってもすぐにその意向に沿えない場面に対してはがゆく、今後の課題である。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いはいしていないが、施設での生活パターンに沿って支援しているのが現状である。対応できる範囲内の希望にそえるよう努力している。起床時間、食事時間はその時々体調に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみは手持ちの服の中でその人らしさは感じられる。ただ皆同じようなズボン、短めの髪型になっている現状を変えていきたい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけに至るまで、その方の力量に合ったお手伝いをお願いし、一緒に行っている。食べ物の好みも把握している方には、食べやすいものを提供している。	朝・昼食はレトルト商品を、夕食は業者から送られた食材を調理し、ご飯とみそ汁は事業所独自に調理している。利用者は出来る範囲で下ごしらえや食器拭きなどを行っている。きざみ食、カロリー制限など個人に応じた食事の提供が行われている。旬の物・お裾分けの食材・誕生日に合わせた料理など食事が楽しめる工夫もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良時や義歯の装着状態に応じて食事形態等の工夫をしている。水分摂取量の少ない方へは飲んでいただけるよう声掛けやチェックシートにて量を把握し促しや摂りやすい飲物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後援助が必要な方には一緒に行っている。拒否がありうがいもできないときは口腔内に食物が残っていないか確認し殺菌作用のある緑茶を飲んで頂いている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間を除き、全員トイレでの排泄可能、その能力を維持できるよう支援している。また排泄表にして排泄パターンをつかみ、失敗のないように心掛けている。トイレの場所がわかるよう表示している。夏のムレを防ぐため、リハパンから昼夜、布パンツに変更した方もいる。	排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを介護の基本として取り組んでいる。ポータブルトイレは夜間のみとしたり、夏のムレ防止にリハビリパンツを布パンツにするなど、排泄の自立に向けての前向きな取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご自分で訴えられない方には毎食後トイレに座る習慣づけ、水分大目に摂っていただく。朝食後にヨーグルトを食す。おやつにできるだけ果物を取っていただくなどの対応をしている。牛乳を飲んでいただいている方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決められているが、ご本人の体調や拒否により、入浴日や時間の変更は行っている。現在週2回と決められているがご本人の希望で入浴できる体制に組み替えている。	1階は月～土、2階は月・火・木・金を入浴日とし、1人週2回の入浴となっている。座位で入る機械浴であり、重度者にも優しい入浴になっている。長湯・熱い湯・ゆず湯・みかん湯など好みや季節感を味わいながらの楽しみも取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にご自分の居室で自由に休まれている。休まらない方へは昼食後の午睡を勧めている。介助必要な方へは排泄済ませ臥床していただいている。夜間は寒い日の暖房や湯たんぽなどで室温調節し、眠れやすい支援をしている。夏場はすだれとクーラーで室温調整している。なかなか寝付けない方への不安を取り除くため傾聴している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人のファイルに挟まれている。服薬の注意点など説明はしている。看護師が薬の変更等ある場合は連絡帳や個人記録に記入して全員に確認できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花見、足湯、花の里周遊ドライブ、ぶどう狩り、紅葉狩りと言った季節に沿った外出を行い気分転換をして頂いている。地域の生活展、文化祭に作品を展示して見学に行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が買い物、散歩に出かけられるように人員体制を増やした。近くへのドライブなど気軽に出かけられる支援に努めている。	日常的であり、希望に応ずる外出までには至っていないが、人員の調整を図りながら、外気浴を兼ねた玄関先の散歩は行われており、五感の刺激や気分転換になっている。花見・紅葉狩り・ぶどう狩り等の計画的ドライブや文化祭の見学・買い物・図書館等へも出掛け、外に出ることが楽しみとなるよう取り組んでいる。	事業所周辺の道路事情や職員の配置状況、建物の構造的あり方、玄関の施錠など自由に外出できる条件は整っていないが、あたり前の暮らしのあり方を支援するために、寒暖や風、季節の移ろいを普通に感じられる外出支援が日常的に、希望に副って行えるよう検討されることを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持したり、お預かりしている方はおらず、必要な品は職員が購入しまとめて請求している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望のある方はご家族の都合を考慮し、電話している。また、書ける方は、年賀状、母の日のお礼に手紙を書いているが返事はほとんどない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを楽しんでおられる方々の周りで大声での職員間の話(必要な申し送り含めて)注意している。不必要なテレビの付けっぱなしはない。リラックスできる音楽を聴く等に注意を払って行く。季節感を味わう花は随時飾っている。利用者個々への大声での声掛けも注意している。	季節に応じた各種の行事を行うと共に、窓から見える季節の移り変わりを十分に楽しめる空間になっており、季節と共に日々の暮らしが過ごせるよう努めている。有線からの音楽、ゆったりとしたソファ、利用者の俳句や行事の写真の展示など馴染みやすく、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつのスペース、ソファ2ヶ所、長椅子など配置し思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は押入れがあり、なじみのタンスを置いていただく空間がない。ご家族にも馴染みの品をお願いした。皆と同じような個性の少ない居室でお布団はご自身が使用されていたものが持ち込まれている。ご本人の作品を飾ったり行事での写真等ご本人の意向を聞きながらお部屋作りをしている。	括りつけの押入れが広く、持ち込んだ物が整然と収納されている。仏壇・イス・テーブル・写真などが思い思いに持ち込まれ、その人なりの部屋作りが出来ている。エアコンによる室温管理で、採光も良く、のんびりと過ごせる部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレでの排泄に努め、立位、移乗等ご本人の力を活かして安全に行えるようにしている。差し込み式電気を使うなどこれまでの生活歴を考慮しかつ安全で安心して過ごせるよう工夫している。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほぼ実践できている。	理念を玄関入口に掲げ、職員だけでなく、面会者等にも理解できるよう対応している。理念と「ケア方針」を併せて、事業所が拠り所とし、目指す方向を明文化している。パンフレット等に明記することを検討中である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、秋祭りなど区の役員や近隣の住民の皆さんを招待したり、中学の文化祭へ出かけたり、地域の展示会へ作品を出し交流を深めている。	自治会に加入すると共に、地域の行事への参加、事業所の行事への招待、各種のボランティアの受け入れ、高校生の実習受け入れなど地域とつながりながらの暮らしを支えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>	夏祭りに地域の皆さんを招待したり、見学やボランティアの方を受け入れ日常の支援をありのままに見ていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者や入居者の意見を参考にしたり、意見を取り入れ、外出や散歩の機会を増やしている。	行政・地域・家族・介護相談員・民生児童委員の構成で、年4回、開催され、事業所の現状や課題が透明性を持って報告されている。外部評価も議題として提起され、委員の理解を得ている。多くの方の参加を望んでおり、開催曜日や時間を検討している。	委員構成の中に地域の代表者や消防団員の参加を検討されることを期待したい。また、運営推進会議を行事や防災訓練などと一緒にすることも、委員の方の事業所理解に結び付くので、検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加し、出された意見を参考にサービスの向上に努めている。	運営推進会議の前に、30分ほどの利用者との話し合いの場を設け、町や広域連合の職員の事業所を理解して頂く場としている。介護保険等に関する相談は電話等で行い、行政からの各種情報は法人内の連携により掌握している。介護相談員の訪問が2か月に1度あり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。帰宅願望強いときは一緒に外に出て散歩する。	玄関や2階の出入り口は施錠されているが、勤務人員体制などを考慮して、主として午後を中心に利用者の気持ちに副って外出・外気浴を行って、抑圧感のない暮らし作りに努めている。身体拘束しないケアについては職員の認識の共有化は充分に出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止学習会などにも参加したりして職員の学習教育に力を入れている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員学習会などを行ってきた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。新制度導入時には文書を送り、同意を得てから行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を出しやすい関係づくりに努力している。また、ご意見箱などを玄関に設置している。	意見・思い・要望は利用者には日々の生活の中で聞き、家族には面会時や電話、必要に応じては事業所に来て頂き、話し合っている。「ひなたぼっこ通信」を毎月発行し、担当者による近況報告も毎月行い、信頼関係作りの工夫をしている。要望等には速やかに対処している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、月2回の拡大所長会議に反映させている。	職員は月1回のスタッフ会議や勤務の中でリーダーを通じて意見や要望等を提案している。スタッフ会議の議題の提案も出来るようになっている。管理者とは年2回ほど個人面談を行っている。研修や学習の機会を積極的に設けて、職員の向上心を引き出している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の低い中でも、労働条件の改善に努めている。この間、退職金制度の導入や、職員互助会を立ち上げた。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発を重視し、互助会による自己啓発助成金の導入や年に1度は教育学習会への参加を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪地域の民医連加盟事業所間の交流、長野県グループホーム、宅幼老所連絡会の交流などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>声掛けや接する機会を多くし、信頼関係を早く作れる様にスタッフ一同努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>こまめに連絡や、報告をし、安心して過ごして頂ける場であること、これからの方向を話して考えるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>様子観察をしながら必要なサービスの提案と検討を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>何ができるか、好きなのかの様子をみながら、個々にしてもらうことを変えて行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時は特に一緒にいれる時間を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話の中でのきっかけとして、場所などを選びドライブも行っている。	広域からの利用となっているので、事業所の近辺に馴染みのない方もいるが、友人や隣接する宅幼老所の利用者が訪ねて来ることもある。ドライブで生家や懐かしい学校へ行ったり、家族の協力で墓参りをして馴染んだ場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話好きな利用者が、他の利用者に話し掛けられているとき、見守っている。一人でいるときは側に行き、話をしたり、寄り添っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の課題である。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、意向に沿えるように努力している。本人の思いを知るとのことで私の気持ちシートを全員検討している。	「私の姿と気持ちシート」作りに取り組み、2階の利用者は全員分が出来上がった。傾聴や回想法などを活用して利用者の思いを聞き出し、その人らしく暮らしていけるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時に話と一緒に入ったり、話しかけたりし、今までの暮らしを聞かせて頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者とのモニタリングの摺合せ、カンファレンスなどを通して全スタッフから情報を収集、伝達する。また検討後はまとめ、再確認してもらえるようにしている。ノートを活用もできている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、フロア会議、日々の朝礼時などあらゆる機会を通じ、スタッフ間の意見交換を行い現状の把握に努めている。ご家族やご本人の意向をうかがう機会を多く持てるようにしていきたい。	利用者や家族の意見や要望を盛り込んだ介護計画を作成し、サービス提供状況は個人記録に明記し、3か月毎の実施状況把握・評価につなげている。毎月、フロア会議等の際に介護計画の実施状況や意見交換を行い、現状に即した計画となるよう対応をしている。	モニタリングは、より適格な次の計画作りに結び付く素材である。提供したサービスを正確に記録し、その際の利用者や職員の思いやつぶやきが明記されると、評価しやすくなるので、実施状況を記録しやすい様式作りの検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項についてはし、医療事項については色線を使用するなど記録の工夫を行い、事実の情報共有を心掛けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスのマニュアル化に於いてのメリット、デメリットを認識し、状況に即した適切で柔軟なサービスが提供できるよう全スタッフが意識を持てるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>スーパーへの買い物、ボランティアの参加もあり、暮らしにいい風がふいている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>看護師よりご家族への連絡をし、意向に沿えるように様になっている。</p>	<p>利用者や家族の希望するかかりつけ医となっており、多くの方が事業所の協力医療機関となっている。通院は看護師が同行し、医療機関との連携は良好であり、家族との情報交換も充分に行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的に心身状況の情報は看護・介護職間で共有し、適切な医療・看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>連携を深めるために積極的に働きかけている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階から、本人家族、主治医と話し合いを行いながら対応している。</p>	<p>重度化や終末期対応の指針があり、利用者や家族に了解を得ている。医療対応が多くなる場合は個別に話し合うことになっているが、基本的には、家族等の意向に副う体制になっており、終末期には看取り計画を立てて対応することになっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や訓練などを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回避難訓練応急処置訓練を消防署と一緒にやっている。	昼・夜想定避難訓練、緊急連絡網による伝達訓練・消防署への通報訓練と災害時の対応への備えは出来ている。地域との相互応援体制・スプリンクラーの設置・食糧の備蓄などの体制は整っている。2階の利用者の避難誘導は階段利用は困難が多いので、消防署の指導を得て、的確で現実的な方法を選択することが良いと思われる。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識を持って対応するよう心掛けているが、配慮が不十分と思われる時がある。お互いの向上の為スタッフ間相互に評価しあっている。書類などは保管し、秘密厳守となっている。	理念に「心があたたかくなる言葉かけ」を掲げており、接遇月間を設けて自己評価・管理者評価を行い、相手の立場になって接することを心掛けている。馴合いの言葉かけ等が見受けられるので、その場・その時にリーダーや管理者から注意を促している。書類等は鍵の掛かる保管庫に収納されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の確認や選択の機会を多く持つよう心掛け、ご本人がどのようにしたいのかを確認しながらやっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の入居者に配慮しながらご本人の思いや体調に合わせた支援に努め、個々のお部屋も「らしさ」を出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択可能である方は自身でおこなっていただけるよう援助し、同じ服だけでなくおしゃれができる様にしている。外出時は気を配っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を変えたり、好みの飲み物を飲んでもらえるようにしている。楽しく食事ができるよう席もその都度変更している。	朝・昼食はレトルト商品を、夕食は業者から送られた食材を調理し、ご飯とみそ汁は事業所独自に調理している。利用者は出来る範囲で下ごしらえや食器拭きなどを行っている。きざみ食、カロリー制限など個人に応じた食事の提供が行われている。旬の物・お裾分けの食材・誕生日に合わせた料理など食事が楽しめる工夫もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	牛乳やヨーグルト、野菜ジュースでもバランスを補っている。排便コントロールにもなっている。水分摂りづらい方にはトロミをつけたり水分量チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない方には、スポンジ、ハミングッドなどでケアしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間を除き、全員トイレでの排泄可能、その能力を維持できるよう支援している。また排泄表にして排泄パターンをつかみ、失敗のないように心掛けている。トイレの場所がわかるよう表示している。夏のムレを防ぐため、リハパンから昼夜、布パンツに変更した方もいる。	排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを介護の基本として取り組んでいる。ポータブルトイレは夜間のみとしたり、夏のムレ防止にリハビリパンツを布パンツにするなど、排泄の自立に向けての前向きな取り組みが行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ、体に合った水分の種類を検討し提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の看護師、配置の都合上、一応曜日、時間帯を決めているがその限りではない。	1階は月～土、2階は月・火・木・金を入浴日とし、1人週2回の入浴となっている。座位で入る機械浴であり、重度者にも優しい入浴になっている。長湯・熱い湯・ゆず湯・みかん湯など好みや季節感を味わいながらの楽しみも取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況に応じ午睡を取ったり、運動量を多くしたりなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書は個人ファイルに挟み、目薬の注意点など説明している。ジェネリックになってもわかるように薬表を作っている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご家族のご協力を得てご本人様をより深く理解するための情報をいただいたり、日常生活の中から施行や役割、可能性を見いだせるよう留意し、観察を行っている。</p>		
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や体調を見ながら散歩や外気浴の機会が多く持てる様援助している。近隣の図書館、スーパーなどには出かけている。</p>	<p>日常的であり、希望に応ずる外出までには至っていないが、人員の調整を図りながら、外気浴を兼ねた玄関先の散歩は行われており、五感の刺激や気分転換になっている。花見・紅葉狩り・ぶどう狩り等の計画的ドライブや文化祭の見学・買い物・図書館等へも出掛け、外に出ることが楽しみとなるよう取り組んでいる。</p>	<p>事業所周辺の道路事情や職員の配置状況、建物の構造的あり方、玄関の施錠など自由に外出できる条件は整っていないが、あたり前の暮らしのあり方を支援するために、寒暖や風、季節の移ろいを普通に感じられる外出支援が日常的に、希望に副って行えるよう検討されることを期待したい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族とも相談の上、自己管理できる方はお願いし、希望に応じた買い物に同行し使用できるよう支援している。また、自販機で飲み物を買ったり、移動販売のパンを買うこともある</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を掛けられる方には、自身でかけて頂き、掛けられない方にはお話できる様取次ぎをしている。ご家族にも事前に相談し、都合のよい時間帯などをお聞きしご本人様の満足が得られるよう心掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の清潔、導線の安全などと合わせ、雰囲気づくりに配慮している。個々の言動に留意し、ご本人のみの事としてとらえず、他人の影響なども考慮し、援助にあたるよう心掛けている。	季節に応じた各種の行事を行うと共に、窓から見える季節の移り変わりを十分に楽しめる空間になっており、季節と共に日々の暮らしが過ごせるよう努めている。有線からの音楽、ゆったりとしたソファ、利用者の俳句や行事の写真の展示など馴染みやすく、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子などを多く配置し仲間で集い、ゆったりと過ごせる場を提供し、音や照明などにも配慮している。電気を消したりして、ゆっくりする時間(午睡時)を作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や近親者の写真などを添付したり、テーブルに椅子などを配置されているかたもいる。利用者同士でお部屋を行き来している姿もあり、写真を見ながら話して花が咲くこともある。	括りつけの押入れが広く、持ち込んだ物が整然と収納されている。仏壇・イス・テーブル・写真などが思い思いに持ち込まれ、その人なりの部屋作りが出来ている。エアコンによる室温管理で、採光も良く、のんびりと過ごせる部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認知ができない方には、部屋に目印をつけたり、その都度案内をしている。		